

## 人間生活工学ガイドライン

### 1. 目的

人間生活工学ガイドラインは、人間に対する効果・影響を謳ったさまざまな製品・サービスが注目を集め、流通する中、生活者が安心して、それぞれの身体特性や生活特性に合った製品・サービスを選択し使用できるよう、人間生活工学的機能<sup>(注)</sup>が科学的なプロセスにおいて開発されること、また生活者に対して適切な情報提供が行われることを目的とする。

(注)ここで対象とする人間生活工学的機能とは、人間の日常生活の改善が図られ、安全、安心、健康、快適、便利な生活の維持・増進に寄与することが期待できる機能を言う。

### 2. 適用範囲

製品：販売することを目的に作られた工業製品。ソフトウェアやシステムも含まれる。  
製品に付随するサービスも含まれる。

### 3. 人間生活工学ガイドライン

人間生活工学的機能は、その開発プロセスにおいて、以下の要求事項を満たすこと。

開発プロセス	要求事項
要求仕様策定（製品コンセプト策定）	・要求仕様の策定（製品コンセプトの策定）において、人間生活工学的機能の位置づけが明確であること。
設計	・人間生活工学的機能の設計仕様導出の根拠が、科学的、論理的に説明されていること。すなわち、以下の3つを満たしていること。 人間生活工学的機能の設計仕様導出のために行われた調査、実験、データ活用が、方法、手順、規模において妥当である。 人間生活工学的機能の設計仕様導出のために行われた調査、実験、データ活用が、データ処理、解釈、判断において妥当である。 人間生活工学的機能の設計仕様導出のために調査、実験、データ活用を行っていない場合は、設計仕様導出に至った方法、手順が妥当である。
確認評価	・試作品による人間生活工学的機能の確認評価が、科学的、論理的に行われ、その目的と結果に対応性があること。すなわち、以下の2つを満たしていること。 試作品による人間生活工学的機能の確認評価が、方法、手順、規模において妥当である。 試作品による人間生活工学的機能の確認評価の結果が、データ処理、解釈、判断において妥当である。

製造	<ul style="list-style-type: none"><li>・最終製品の人間生活工学的機能が、設計仕様に基づいて製造されていること。</li><li>・製造上の理由から、人間生活工学的機能の設計仕様に変更が行われている場合、それは要求仕様を満たされる範囲内で行われていること。</li></ul>
コンシューマーコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"><li>・人間生活工学的機能の記述・表示が、当該機能を適切に表現していること。</li><li>・人間生活工学的機能の記述・表示が、生活者が容易に理解可能な表現であること。</li><li>・製品発売後、人間生活工学的機能の使用効果や使用感について、使用者の声（ユーザーレビュー）を収集する手段や収集した情報の活用方法について、計画を立てていること。</li></ul>

以上